

古代東海道の駅路を歩こう！30下総・常陸編①

日 時:2009 年 1 月 24 日(土)11時～17時

集 合:JR総武線市川駅北口(交番付近)

コース:市川駅～大門通り～真間手児奈霊堂～下総国府跡(古代井上駅)～二十世紀が丘～新京成線
八柱駅・JR武蔵野線新八柱駅<街道ルート約12km>

その他:悪天候(雨天、降雪)の場合は翌日(1/25)に延期します。判断がつかない場合は主催者まで
ご連絡下さい。

今回主催:梶川義実

今回の活動について

今回から約1年間をかけて下総国府(市川)から常陸国府(石岡)まで歩きます。下総と常陸の間には、現在の利根川やその氾濫原が広がっているため、ルートの特定が困難な区間もありますが、台地上には郡衙跡、延喜式内社や古代官道の特徴である直線路が残っています。街道沿いには江戸期の遺稿も多数あり、長い間、この地方の人々に使われていたことを示しています。また、神奈川編、東京編と異なり、徐々に田園風景あふれる地域を歩きます。四季折々の植物を楽しむことが出来るのも、楽しみの一つです。

なお、当会では、上総国府(市原)～常陸国府は2000年に歩いており、後半はこのルートを再び歩きます。

平安初期の駅路は、柏市史によると以下のように推定されています。

武蔵国豊嶋駅～下総国井上駅(下総国府)～下総国茜津駅～下総国於賦駅～常陸国榛谷駅
～常陸国曾祢駅～常陸国府

沿道の見所など

真間手児奈霊堂:真間の手児奈は万葉集に歌われています。霊堂は1501年の建立とされ、手児奈の墓と伝えられるあたりに建立されている。

真間の継橋:万葉集にも歌われている。真間川に架けられていたとされる。

下総国府跡:市川市国府台にある。鴻之台とも言われる。下総国は天智・天明期(7世紀後半)とされ、現在の和洋女子大学、千葉商科大学、国府台公園に広がるゾーンに遺構が発掘されている。戦前は軍の施設が置かれた。

二十世紀が丘:1970年代に開発されたベッドタウン。二十世紀梨に由来する。この開発により、この区間の古代官道は破壊された。

八柱:8つの集落が柱になって造った村(八柱村)に由来する。新京成の駅は「やばしら」、JRの駅は「しんやはしら」と読む。